【非営利活動／有志プロジェクト】

Tokyo Work Design Week 様

流れるコミュニケーションと蓄積するコミュニケーションをうまく活用

"Tokyo Work Design Week（TWDW）"は、新しい働き方と出会える一週間。
毎年、勤労感謝の日の前後で開催し、今年で４回目を迎えます。

「新しい働き方」や「未来の会社」にまつわる様々なことに、web や雑誌、書籍で見るだけではなく、実際に出会える場所を提供するイベントです。
過去３回で、述べ１万人の来場者があり、働き方への関心の高まりとともに集客力が高まっています。

そんな TWDW の企画や情報共有にサイボウズ Live が使われているので、取材させていただきました。

❑働き方にはたくさんの可能性と選択肢があることを伝えたい

copyright © Cybozu

TWDW は、どのような想いで始められたのですか？



Tokyo Work Design Week　オーガナイザー　横石 崇氏

東日本大震災の後、誰もが生き方や働き方の価値観について考えさせられたと思います。誰から頼まれたわけでもなく、ユニークな生き方や働き方をする人たちと出会い、対話していく中から「僕らの世代で、何か新しいことを作っていかないとダメだよね。やってみよう。」ということで、１０人くらいの勉強会から始まりました。

「働き方の祭典」と言っているのですが、売り上げが上がる、成果が上がる、出世できる、起業しよう、転職しよう、といったメッセージというよりも、働き方にはたくさんの可能性があって、選択肢があることをただただ伝えています。 新しいことをやろうとしている人へのサポートの場になればいいと思っています。

３年間やってみて、変化をどのように感じていますか？

copyright © Cybozu

梯子型のキャリアが従来の仕事観だとしたら、ジャングルジム型の仕事観というのもあると思っていて、上にも下にも横にも斜めにも行けて、飛び降りることもできる。一本しかない道ではなく、多様で、自分次第で上にもどこにでも行けると語れる時代になったと思います。

以前から言われていたのかもしれないけれど、実践者が出てきたのが面白いと思っています。このイベントでは、実践者に重きを置いて、トークセッションやワークショップを開催しています。

初対面の人と繋がり、一つのことを成し遂げるというのはとても大変なこと

首都大学東京 1〜4 年生の学生約 30 名で p!ece を運営しています。立ち上げ当初は「全体」「各局」という 2 つのメーリングリストで、会議の日程やタスクのリマインドを連絡していました。

サイボウズ Live の導入経緯を教えてください



Tokyo Work Design Week 事務局リーダー 森垣 卓也氏

copyright © Cybozu

このプロジェクトは、約 100 名のボランティアスタッフで成り立っています。
９割がどこかに所属している会社員、１割が学生で、男女比は半々という多様なメンバーです。ボランティアスタッフをどのようにまとめていくかが、初年度からの課題でした。

初年度は、様々なツールを試行錯誤しながら併用する運用で、効率が悪いながらも運営していました。
今は、当日だけのスタッフは Facebook グループ、企画から関わるスタッフはサイボウズ Live で議論するという運用になっています。

活用方法を教えてください



Tokyo Work Design Week 事務局スタッフ　集合写真

毎年グループを一つ作成し、グループ毎に掲示板を立てて利用しています。
例えばブログを担当するチームの場合、担当決めや下書きのチェック依頼、公開指示を掲示板でやり取りします。
また、チームごとに MTG を実施する際の日程決め等も行います。

日程が決まったら、イベントに登録する運用になっています。

copyright © Cybozu

Facebook グループとの違いはありますか？



Tokyo Work Design Week 事務局　広報リーダー　北澤 愛氏

Facebook グループだと、なんとなく受け身になってしまうように思います。誰かメインの人が発信する場であって、その他の誰かが発信することはないのです。

しかし、グループウェアは思考が整理されやすく、ちゃんとしなきゃ、やらなきゃという気持ちが生まれるように思います。その状態が居心地が良いです。

自分が能動的に参加する責任感が生まれ、ボランティアの人が積極的に使ってくれています。普段話さない人が、積極的に発言してくれるのも面白いと思います。

copyright © Cybozu

初対面の人とつながって一緒に作業をして、一つのことを成し遂げるというのはとても大変なことです。それがグループウェアによって支えられ、まとまって作業ができているのがツールのすごい所だと思います。

QR コードを使うことで、長蛇の列から卒業

今年から、スマートフォンアプリ「サイボウズ Live TIMELINE」をメインで利用いただいています。感想を教えてください。



全員に通知したい連絡や、すぐに伝えたい連絡はタイムラインに投稿。チームに関する連絡は掲示板に投稿。

copyright © Cybozu

感覚的なものになりますが、去年よりもスタッフのレスポンスが早くなりました。
更新情報がすぐにチェックできるし、メンバーの反応もすぐにわかるため、自分も見なければという気持ちになります。良い意味で強制力が出ています。

また、劇的に改善したことがあります。

昨年までは、Facebook グループを企画スタッフでも利用していたので、キックオフミーティングの後に、
「みなさん森垣さんの前に並んでください。Facebook グループに招待したいので、友達申請・承認をこの場でやりましょう」
といって、長蛇の列ができていました。

今年は、サイボウズ Live を TIMELINE アプリで利用することに決めていたので、予めグループを作り、グループ参加用の QR コードをキックオフ資料に入れておくことができました。
メンバーは、TIMELINE アプリにある QR コードリーダで読み込んで参加申請してもらうことで、とてもスムーズでした。

コミットメントが強い企画チーム、広報チームは、作業量も多く、流れていくコミュニケーションだけでは運営が難しいです。しかしリアルタイム性も必要です。
流れるコミュニケーションと蓄積するコミュニケーションをあわせ持つ、サイボウズ Live TIMELINE は、私たちの運営とうまく噛みあったと感じています。

☐ 働き方が多様化していくと、サイボウズ Live がもっと生きてくる

copyright © Cybozu

サイボウズ Live に期待することを教えてください。



TIMELINE アプリには 1vs1 の直通連絡手段がないため、困っています。
例えば、森垣さんと横石さんとだけ相談したい場合に手段がないため、Facebook メッセージに流れています。そこがサイボウズ Live で完結できると嬉しいです。

サイボウズ Live は、仕事以外のコミットする場所を持つ人に響くツールだと思います。
今後、会社員が副業する時代がやってくると、より生きてくるツールだと思います。

2016 年 11 月 15 日

copyright © Cybozu